

パソコン時代の終焉（1）

iPhoneやiPadを開発したスティーブ・ジョブズ氏は、「パソコン時代に終止符を打った男」といって良いでしょう。何故なら、「ポストPC時代の到来」は、ジョブズ氏自身が予言していたことだからです。

ジョブズ氏が亡くなったのは今年の10月5日のことですから、早いもので、もう8ヵ月にもなります。

ジョブズ氏といえばアップルを興し、

1984年に現在のパソコンの原型とされるマッキントッシュを発売、

2001年にはアイポッド、

2007年にはiPhone、

2010年にはタブレット端末iPadと、

次々に多くの新しい製品やサービスを世に送り出し、しかも、いずれも大ヒットさせています。

パソコンを初めて手にした時の驚きは、忘れられません。そして、パソコンの登場は、我々の生活スタイルを大きく変化させてきました。インターネットを通じて、様々な情報を容易に手にすることが出来るようになりましたし、居ながらにして買い物したり、飛行機の予約をしたりと、非常に便利にもなりました。また、メールのやり取りで、瞬時に数多くの人達とコミュニケーションを取ることが出来るようになりました。

パソコンがなければ夜も日も明けぬ、仕事も生活も出来ない様な状況になっていますが、しかし、ジョブズ氏が開発したiPhoneやiPadの登場によって、今や、そのパソコンを使わなくてもパソコンとほぼ同じ事が出来るようになりました。まさに、ジョブズ氏が予言したとおり、パソコンの時代からスマートフォンの時代に突入したといえるでしょう。

ジョブズ氏が亡くなった時、世界中の人々が彼の死を惜しみ悲しみました。1人の経済人の死が、これ程世界の人々に衝撃を与え、涙させたのは珍しいことだと思います。

ジョブズ氏は毀誉褒貶の激しい人だったようです。彼の才能に引き寄せられ

た人が沢山いる反面、彼の思いが理解されず離れていった人達も少なくありません。

彼は、1985年に一旦アップルから追放されてしまいます。しかし、12年後の1997年には再びアップルに呼び戻されたことでも分かるように、彼が提案してきた新しい生活スタイルは時代を先取りするものであり、時代が彼を必要としていたということだと思います。

私は、IT技術やIT産業について門外漢ですので、そうした観点から彼の業績について語る術はありませんが、ジョブズ氏の残した言葉からは、彼の独創性が単に天才的な才能の閃きだけではなく、モノ作りへの執念や真摯な姿勢、そして、大変な努力の積み重ねの中から生み出されたものであるということを理解することができます。

それを、「スティーブ・ジョブズ全発言（桑原晃弥氏著）」の中から幾つか紹介したいと思います。＜続く＞（塾頭 吉田 洋一）